

3月議会活動報告

310億の大型予算に!

吉川美南駅開業・県道
(吉川・三郷)も開通!

いながき



いとう

一般会計194億69百万円(前年 4.9%減)、国民健康保険73億92百万・介護保険27億60百万等5つの特別会計を加えると、総額310億1,496万円(前年 0.2%増)の大型予算となりました。

新駅の工事負担金は10億5,490万円、前年(25億7,265万円)より大幅減となったが、美南小学校建設・整備や新設民間保育所委託費、防災対策・除染対策をはじめ生活保護世帯の急増等、課題への対応を図るため、財政調整基金の大部分(11億700万)を繰り入れての予算編成となった。

代表質問では、第5総合振興計画前期基本計画の重点テーマに沿って質問を行いました。

平成24年度の主な新規・継続・拡充事業

学校関連 25年4月開校の美南小学校建設・整備、栄小・北谷小体育館の耐震補強及び大規模改修工事。小学校(7)・中学校(3)校舎の耐震補強はすでに完了、体育館については吉川小学校のみを残すこととなった。懸案の『学校給食センター』建て替えについては、PFI導入調査を実施。

子育て支援 駅南に設置される民間保育園(2園)並びに送迎保育への委託及び補助。子育て支援センターの拡充、ココロに『子育てサロン』が新設される。美南学童保育室整備も。

防災・放射線対策 昨年の3.11の大地震・原発事故を踏まえ、吉川市地域防災計画の見直しをはじめ、ハード面の整備を実施。食料・仮設トイレ・毛布等災害用備蓄物資の備蓄、避難所4カ所への防災倉庫の設置、防災行政無線の増設等。また、以前より提案要請していたマンホールトイレの設置(武操跡地4号公園・美南小)が盛り込まれた。

除染については昨年11月の臨時議会で9千万円の補正予算を組み、第1期計画で保育所・幼稚園・小中学校・公園の除染を実施したが、今年4月からは第2期計画として、街区公園等の除染を進める。学校給食は、給食食材の放射性物質検査を4月より実施。

吉川美南駅関連 新駅工事負担金、駅自由通路管理委託。美南駅への新規バス路線への運行補助金・掲示板等の設置。東口暫定駐車場管理委託・駅前自転車整理業務等。

周辺開発については、整備の検討及び土質調査を実施。

緊急雇用対策 防犯・資源ごみ抜き取り防止パトロールや駅前放置自転車対策事業等の継続実施。公園台帳電子化業務・農業用水路管理図作成業務等を新たに追加。県の補助金を活用。

その他の事業 地域活動支援センター(障がい者日常生活支援)の運営委託、大腸がんクーポン検診等。その他、小松川工専地区産廃業者進出に関連してダイオキシンとアスベストの測定・分析も。

24年度代表質問

『地域防災計画』見直しのポイント、放射線物質対策(除染計画・食材検査)、新庁舎建設、治水対策、保育所の待機児童と認可外保育施設への支援、武操跡地のまちづくり及び新駅周辺開発の事業計画と土地区画整理事業の見直しについて、提案を交えて質問(稲垣)。

いながき・いとうの
3月議会報告

4月7日(土)午前10時00分～
おあしすセミナールーム

どなたでも

いながき 茂行 栄町782番地1C-1101 TEL 983-1628
Eメール iimachi.yoshikawa@gmail.com
いとう 正勝 きよみ野2-8-2 TEL&FAX 983-1117
Eメール itoh72@nifty.com
市民改革クラブ ホームページ開設
<http://www.geocities.jp/kaikakuclub>

提案

「跡地」をエコ、スマートのエリアに

環境・防災・ITの未来都市モデルに



売却の条件に
エコタウン化を
いとう 正勝

武蔵野線のレイクタウン。リ
ニューアルの新三郷。その中間
に吉川新駅開業。縦軸の骨格
道路、三郷・吉川線の開通。横
軸の吉川橋掛け替え、越谷・吉
川線の整備も続きます。大震
災を受けての新庁舎建設など
―百年の大計を固める大事な
ときを迎えています。

▽起爆剤は新駅と一緒に整備
が進む「操車場跡地」の活用で
す。運輸施設支援機構が120
億円をかけて基盤整備。この夏
に公開入札、秋には一括(28.
8畝)売却される見込みです。
▽近隣商業地域、中高層
専用、低層住居専用地域など
土地利用計画の区画を定めた
上での売却ですが、このエリア
全体をエコ・スマート(環境未来
共生都市)の実証モデルとして
整備できないかと考えます。
▽新駅東側の「周辺開発」や三
輪野江の「白地地区」II産業ま

ちづくりゾーン。未着手の用地
への拡張、活用も視野に企業群
が総力を挙げて取り組む―。
▽国や県の施策との連動も重
要。北九州市では大小の企業
群によるスマートシティ計画が
先行。柏市の柏の葉キャンパス
駅周辺は「総合特区」、三井不
動産が主導で推進しています。

「周辺開発」も エコ・防災・スマートで

こうした発想のもとに一般質
問では跡地の一括売却に際し
ては条件を付して誘導するこ
とは出来ないかと提案。これに
対し市長は操車場跡地は旧J
R有休地の清算業務であり公
開で最高額の入札者が落札者
となる。条件を付けることは難
しい。しかし購入した事業者に
対してはみどりや自然環境への
配慮などと共に「スマート」なま
ちづくりをと申し上げることは
出来ると思うと表明。
▽「周辺改革」など今後のまち
づくりは公共施行にこだわら

3月議会は2月27日から3月22
日まで開催。全26議案を審議し、
全議案を可決。
1月29日実施の市議会議員選挙
で選出された新人4人を含む20
名で審議。改選後の臨時議会
(2/6)で、正副議長、各常任委員会
委員を選出。会派の構成は、自
民・未来8、共産4、公明3、市民
改革2、無所属3名。

代表質問

市長の施政方針を受け、地域防
災計画の見直し・放射性物質対
策(除染・食品検査)・子育て支援・
武操跡地及び吉川美南駅周辺地
域の開発、まちづくりについて
等、質問を展開。(稲垣)

予算・議案審議3月1・2日

市条例の一部改正(国民健康保
険・介護福祉・保育の実施及び保
育料・職員給与等)の他、市道の
路線認定及び廃止(武操跡地・吉
川美南他)について。また、24年度
予算及び23年補正予算を審議。

国保・介護福祉条例の改正や学
校給食センターの建設・電力契約
の変更等(稲垣)、市道の路線認定
及び廃止・防災計画・都市計画街
路・環境センターのアウトソーシ
ング事業等について質問。(伊藤)

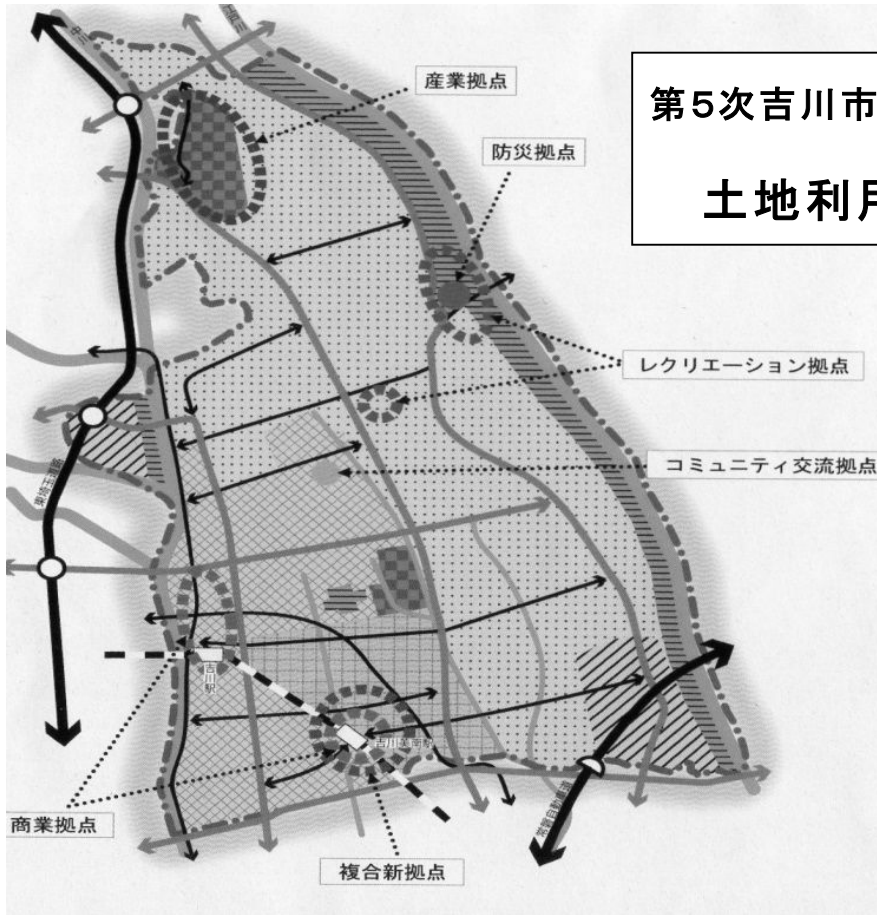
委員会審査

建設生活委員会に(稲垣)、総務水
道委員会に(伊藤)が出席。3月6
日、9日。それぞれ詳細に質疑。

議案―討論・採決3月14日。
24年度予算について(伊藤)が賛
成討論。

第5次吉川市総合振興計画から

土地利用構想図



多機能型市街地形成
(周辺開発63ha含む)

産業まちづくり地域
(工場、流通業務等誘致)

吉川美南駅

武操跡地(28.8ha)

ず、民間に委ねる柔軟な対応も必要ではないか、との問いかけに対しては「周辺開発」については現在県と一日も早い着工をめざし協議中だが、事業者が明確でないと認可が難しいのが実状と答弁。

レイクには年間5千万人前後が来訪。武蔵野線のゴールデンエリア。変革、飛躍へのビッグチャンス。発想・提案・総合力が必要です。パナソニック・日立・トヨタ。あるいは新三郷やレイクタウンに進出の三井不動産や大和ハウスなどが主導し、地区全体がエコ・防災・ITの一つのコンセプト、パッケージとして創り上げる。インフラを含め最先端の技術を結集。地区全体がその展示場、「エコ、スマートタウン」そのものを内外に輸出する。そんな夢が現実にならないかと考えます。

※24年度は10年間の吉川市総合振興計画。健やかな高齢社会を目指す包括的ケアシステム等総合福祉計画のスタート。災後1年。防災計画の全面見直しなど大きな節目。実効ある前進をめざし、稲垣、いとうの蓄積を生かし継続して取り組みます。

価値

UR・都市再生機構による駅南・美南地区の整備事業が完了。道路、公園などの公共施設の市への移管もほぼ終了。総事業費399億円。この間国からの補助金など市予算に計上された関係予算は108億5千万円余。実質的市負担は2億6千万円余。吉川の立地、ポテンシャルパワー。開発利益を還元する形での成功事例です。

同じUR施行で先行のきよみ野は市負担ゼロで実現。新駅・跡地は旧JRグラウンドの現価取得もあり、事実上負担ゼロで実現へ。両脇にイオンの商業群とららばーとの盛況。「跡地」を核にこの「幸運」を更なる地域の発展と先端産業、事業の育成への寄与、国運の隆盛に結び付けることが出来ないかーこの秋は一つの分岐点です。

再び、フッ化物応用に対する市の姿勢を問う！

～フッ素関連最新の情報～



フッ化物応用協議会

昨年8月よりフッ化物応用協議会が開催され、これまで4回の話し合いがもたれました。12名の委員のほとんどが、『フロリデーション(水道水にフッ化物を添加)の安全性・有効性は認められており、議論する余地はない』との立場でのぞんでいます。

市民の理解をどのように得るかがテーマですが、これまでの話し合いの経過からすると『フロリデーションを推進すべき』との結論を出したいようです。

“始めに結論ありき”の協議会ですが未だ市長への報告がまとまらず、24年度も継続されることとなりました。審議会等を隠れ蓑にして、市の政策を誘導し都合の良い答申や報告を受け、責任逃れをするやり方はいい加減にやめて欲しいと思います。

集団フッ素洗口・塗布実施時のインフォームド・コンセント

一部の小学校(北谷・関・旭)と保育園で実施されている『フッ素洗口』と乳幼児検診時に行われている『フッ化物歯面塗布』での説明・同意が不十分だと考えます。

インフォームド・コンセントは、「説明・理解」に基づく「合意」のいずれも欠けないことが前提です。対象となる行為の内容や期待される効果だけでなく、副作用や合併症、代替方法等についても十分な説明を行い、同意を得る必要があります。

現状は、虫歯予防に『有効かつ安全』のみが強調され、急性中毒の恐れ等については説明がされておりません。保護者の側も、学校や保健センターでやること(勧めている)だから心配はないと判断しがちです。また、学校などでは集団心理が働き同じ行動・判断をしてしまいます。

フッ素洗口やフッ化物歯面塗布についても、あくまで個人としてやるべきことと考えます。昨年1月、『フッ素洗口・塗布の中止を求める意見書』が日弁連より出されました。この中で集団フッ素洗口・塗布は、虫歯予防の効果も薄く、安全性に問題があり、行政の施策としても違法性の疑いがある。としています。

市はフロリデーションの推進活動をやめるべき！

水道水へのフッ化物添加は市民に対する強制、押しつけであり、止めるべきです。虫歯が減り続けている現在、その必要性がなく、虫歯予防の方法はブラッシング等いくつもあります。

また、かならず起こる斑状歯等の副作用だけでなく、その有効性・安全性にも疑問があります。

一人が一日に使う飲料水は2ℓ～3ℓ、水道水の99%はお風呂・トイレそして炊事に使われます。水道水の供給事業は、市民へ安全(清浄)で廉価な水を提供するためにあります。薬品や劇物・毒物を入れるためにあるわけではありません。

日本ではまだ実施されていないフロリデーションを、真っ先に行おうとする本当の理由は何なのでしょう。それ程優れた公衆衛生政策ならば、国として推進すべきではないでしょうか。

フッ化物応用を市の保健歯科施策として位置づけ、市民の間に無用な心配と悲しむべき対立、混乱を招いている市の責任は重い。(いながき記)

編集後記

被災地の復興、ガレキの処理や高台への移転、除染もなかなか進まない。港や道路、鉄道等、インフラの復旧・整備も。冷凍・冷蔵施設や加工場がなければ、人は戻れない。仕事もなければ、人は戻ってこれません。国家予算の慢性的赤字、巨額の債務。税と社会保障の一体改革も進まぬ中、消費増税法案の議論が先行。生活保護受給者は210万人に迫り、過去最多となった。問題ばかり。積み、しかも難しい問題ばかり。いろいろな意見があり、将来のことを見据えた判断が求められます。簡単には決められないことばかり。しかし、『決められない』前へ進むことはできません。スピード感も必要です。吉川市議会も先の選挙を経て新たな構成でスタートしました。議会の最大の権能は『決める』ことだと思えます。議員は、職員以上の知識と情報があれば、質問も議論もできません。市民がほとんど望んでいるかどうか。税金の使い道を決めるのは、市民です。緊張感を持って議論を、決める『議会』でなければ、いいまちは創れません。『鵜呑み』にして、職員の説明を『賛成する』なら、質問もいらないのでは。

いながき